

2022年(令和4年)

第30号

(5月1日)

平安だより

HEIAN letter

発行所：立正校成会 京都教会  
 発行責任者：渉外部長 田中規之  
 編集委員長：渉外広報 植田恭司  
 〒605-0041 京都市東山区三条東町 230  
 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

## 今月のことば ～我慢しない-忍辱①～ 西京支部副主任 澤村委久予

今月は西京支部の澤村が担当しました。

私は主人と3人の息子、娘1人の6人家族です。息子は小学生と幼稚園、娘は2歳です。皆元気で体調を崩すことなく毎日が慌ただしく騒々しく過ぎていきます。4人の子ども達を見ては主人と、うちの子は健康で有難いね、楽しく暮らせて幸せだね、とよく話しています。

幸せと感じているのですが、心配している事もあります。それは二男の登校渋りです。4月から3年生になりましたが、1年生の時からです。朝起きて準備はするのですが、登校の時間になると行けなくなります。それが始まった当初は嫌がるのを無理やり連れて行っていました。泣きながら歩き道路の柵をつかんで動かなかったり、ゆっくりゆっくり歩いたりと家を出てから学校に着くまでに時間がかかりました。登校にも時間がかかるのですが教室に入るのにも時間がかかりました。観察池でめだかや虫を気がすむまで見てから教室に入っていました。手の空いている先生が教室に入るまで付き添って下さいました。

ひどい時は学校に着いてからもお母さんと帰ると言っただけ泣き出し、先生に押さえられ置いてきたこともありました。その様子は幼稚園や保育園の子がお母さんと離れるのが嫌で泣いているようで、辛かったです。愛情不足も考えられましたし、この子の将来が不安にもなりました。

行きたくないのなら行かなければいいし、嫌がるのを無理に連れて行かなければよかったのかもしれない

ん。でも、学校からは朝は何事もなかったかのように元気に帰ってくるし、学校での話もしてくれます。明日の準備もして寝ます。頭が痛いお腹が痛い症状があれば休ませるのに、兄弟の中で一番健康な二男はどこも痛いと言いません。怪我でもすれば理由をつけて休ませるのにと酷い事も考えました。

何を思っただけ行けなくなるのか理由は分かりません。ただこの子が入学した年は新型コロナウイルスが流行し始め、社会全体が分からないウイルスに不安を持っていた時です。入学式の次の日から学校は休校になり1学期はまともに学校がありません。そんな状況も関係あったかもしれません。

今月の会長先生のご法話「我慢しない-忍辱」に忍辱は受け入れて認める。ありのまま認めてしまえば不足や不満、怒りや憎悪の感情が鎮まり、つらい、苦しいという思いも軽減されるとあります。二男の登校渋りも、私は受け入れているつもりで認められていないから、怒ってしまうのだと振り返る事が出来ました。

それから、どのような辛苦であっても前向きに受けとめて対処できる忍辱の力が具わっているところから、温かい励ましを頂いているように感じました。辛い二男の登校に付いていくことも減りました。でも、またそうなるかもしれませんが、それがこの子の特徴と思いついて受けとめ認め対応したいです。そして、辛いことも家族で助け合い、家が居心地のよい場であり続けるよう努めたいです。ありがとうございました。

## 庭野開祖のご法話 政治と宗教 ～人々の幸せを願って一票を投じる～

暮らしが良くならないのは、政治が良くないから、政治を変えないといけない。また、口ではいいことを言っておきながら、約束を守らないから政治家は信用できないと思っていたことがありました。選挙で多くの国民は自分が得ることを期待して投票する。選ばれた議員も自分の都合に合った政治をしようとする。だから、ある人には良いが、ある人には悪い政治になる。これは因果の道理でしょう。いい政治になるため

の大本は、一人ひとりがどんな心をもって投票するかによるのではないのでしょうか。

伝教大師は「忘己利他(己を忘れ他を利する)は慈悲の極みなり」と説かれました。まず、有権者自身が周りの人々、日本・世界の人々が幸せになってほしい、子供や孫の世代にも幸福が続いてほしいと願って、一票を投じる。そこから、良い政治が行われる一歩が始まるのではないのでしょうか。

令和4年、私たちは「どこでも道場 祈り祈られ 笑顔と涙によりそおう」を實踐して参ります。

京都教会のホームページが出来ました。 <https://rkk-kyoto.jp/>